

第10回全国障害者生活支援研究セミナー

ほんとうの自立支援とは — 本人中心の支援のありかたを問う —

- 開催要項 P 1- 9
- 参加申込用紙 P 10

日時 : 2009年1月31日(土) ~ 2月1日(日)

会場 : 新宿NSビル NSスカイカンファレンス(30F)
NS会議室(3F)

東京都新宿区西新宿2-4-1 (新宿NSビル)

主催 : 特定非営利活動法人 全国障害者生活支援研究会 (サポート研)

ホームページ : <http://support.ryoiku-c.com/>

<全国障害者生活支援研究会 (サポート研) 事務局>

〒210-0848

神奈川県川崎市川崎区京町2-24-4-608

TEL/FAX 044-271-8788

E-mail support-ken@forest.ocn.ne.jp

担当 村尾・加藤

第10回全国障害者生活支援研究セミナー開催要項

ほんとうの自立支援とは —本人中心の支援のありかたを問う—

●開催要項

現在、国の社会保障審議会障害者部会において、障害者自立支援法の施行後3年の見直しの議論が行われています。障害者自立支援法は、なにより障害者福祉施策の財源を確保するために、障害者福祉制度に介護保険制度を導入するという厚生労働省の計画が不成立となった代案として、十分な検討期間もないまま、まとめられ成立しました。利用者負担や障害程度区分のあり方、国と地方の役割分担・負担のあり方、サービスの種別の問題、給付額の低さ等々、さまざまな課題を孕んでいます。

また、障害者自立支援法では、就労し自ら収入を得るようになることに「自立支援」の重点が置かれています。働いて収入を得、経済的に自立していくこと、それを支援することは大変重要なことですが、一方で「自立とは、本人の意志と自己選択をもとにして、必要なサポートを受けながら生活すること」という、当事者運動が培い、障害者福祉の基本となる「自立」概念がいかされないものになっています。理念や制度のすべては、国庫負担を低く押さえて障害者福祉を行うことを前提とした上に成り立っているかのようです。そのことが、障害者本人、家族、支援者に先行きの見えない不安感を与える原因となっています。

「サポート研（特定非営利活動法人 全国障害者生活支援研究会）」では、障害のある人が「自分らしく」地域で暮せる社会の実現を目指し、「本人中心の支援の確立」についてさまざまに議論し、セミナーをおこなってきました。今回は、障害者自立支援法の見直しにあたり、あらためて自立とは何か、自立支援のあり方はどうあるべきかを、制度論、支援実践論として考えたいと思います。制度の動向にとらわれず、「本人」を中心にした支援を貫くために、そのあり方を様々な観点から検討したいと思います。多くの方の参加をお待ち申し上げます。

○主催

特定非営利活動法人 全国障害者生活支援研究会（サポート研）

○協賛

財団法人日本知的障害者福祉協会 日中活動支援部会

○後援

財団法人日本知的障害者福祉協会／日本障害者協議会／社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会／社会福祉法人東京都社会福祉協議会／東京都障害者通所活動施設職員研修会／特定非営利活動法人DPI日本会議／全国社会就労センター協議会／社団法人全国肢体不自由児・者父母の会連合会／特定非営利活動法人全国精神保健福祉会連合会

（以下予定）財団法人日本障害者リハビリテーション協会／社団法人日本てんかん協会／社団法人日本自閉症協会／特定非営利活動法人全国精神障害者地域支援生活支援協議会／全国自立生活センター協議会／社会福祉法人全国重症心身障害児（者）を守る会／きょうされん ほか

○参加者

障害者の生活支援にかかわる支援者の方 障害当事者とご家族の方 テーマに関心のある方
（手話通訳など何らかのサポートが必要な方は、申込み先までご連絡ください）

○募集定員

400名

委員会	第1	第2	第3	第4	第5	第6
定員	80名	80名	40名	50名	80名	70名

○参加費（参加費・資料代）

【両日とも参加】正会員 10,000円 情報会員 11,000円 その他 12,000円（学生 6,000円） 懇親会費別途 6,000円
【1日のみ参加】正会員 6,000円 情報会員 6,500円 その他 7,000円（学生 3,500円） 懇親会費別途 6,000円

○申込締切

2009年1月9日（金）。各委員会が定員になり次第締め切ります。総定員400名。

○申込受付

参加申し込みは別添申込用紙にて、京王観光調布支店まで郵送またはFAXにてご送付下さい。

申し込み 問合せ先	京王観光 調布支店（担当：大野） 〒182-0024 東京都調布市布田3-1-7 池田ビル5階 TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321 E-mail t.ono@keio-kanko.co.jp
--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○日 程・会 場・内 容

◎1日目 2009年1月31日（土）

9:30~10:00	10:00~10:15	10:15~12:00	13:00~17:15	18:00~20:00
受 付	挨拶	基調講演	実践報告	懇親会
新宿NSビル NSスカイカンファレンス ホールA・B（30F）				ルーム③

●全体会（10:00~17:15）

◇会場 新宿NSビル NSスカイカンファレンス ホールA・B（30F）
東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル 代表TEL 03-3342-3755
（29F・30F専用シースルーエレベーターにて30Fへお越しください。他のエレベーターは不可。）

◆開会挨拶（10:00~10:15）

赤塚 光子（立教大学コミュニティ福祉学部教授／当会会長）

◆基調講演（10:15~12:00）

「障害福祉とこれからの支援のありかた」
小沢 温（東洋大学ライフデザイン学部教授）

◆実践報告（13:00~17:15）

「ほんとうの自立支援とは 一人中心の支援のありかたを問う」
○ 松村 昌子（ワークセンター豊新・大阪）・松端 克文（桃山学院大学社会学部准教授）
○ 牧野 賢一（湘南福祉センター下宿屋・神奈川）
○ 藤田 進（みずき福祉会 八王子市障害者療育センター・東京）
進行・課題整理 安藤 真洋（社会福祉法人武蔵野・東京／当会理事）

●懇親会（18:00~20:00）

◇会場 新宿NSビル NSスカイカンファレンス ルーム③（30F）

◎2日目 2009年2月1日（日）

9:00~9:30	9:30~12:00	13:00~15:30
受 付	分科会	分科会
新宿NSビル NS会議室 303会議室~308会議室		

●分科会（9:30~15:30）

◇会場 新宿NSビル NS会議室 303会議室~308会議室（3F）
東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル 代表TEL 03-3342-3755
（2日目の会場へは、エスカレーター又は低層階用エレベーターでお越しください。）

第1研究委員会	306会議室
第2研究委員会	307会議室
第3研究委員会	304会議室
第4研究委員会	303会議室
第5研究委員会	308会議室
第6研究委員会	305会議室

※内容につきましては、後掲「各研究委員会のテーマ及び要旨」をご覧ください。

※分科会は上記委員会の中から、いずれか一つをお選び下さい。

※会場は変更になる場合がございます。その際は、当日までにご案内いたしますのでご了承ください。

○セミナー事務局

<全国障害者生活支援研究会（サポート研）事務局>

〒210 - 0848

神奈川県川崎市川崎区京町2-24-4-608

TEL/FAX 044-271-8788

E-mail support-ken@forest.ocn.ne.jp

担当 村尾・加藤

○会場アクセス

●電車・徒歩での場合

JR線・京王線・小田急線・東京メトロ丸の内線	新宿駅	「南口・西口」より徒歩7分
都営地下鉄線（新宿線）・京王新線	新宿駅	「新都心口」より徒歩約6分
都営地下鉄線（大江戸線）	都庁前駅	A3出口より徒歩約3分

●車でおこしの場合

青梅街道より	新宿警察署前交差点→都庁北交差点→NSビル
甲州街道より	西新宿交差点→都庁前交差点→NSビル
首都高速より	新宿ランプ下車→新宿中央公園北交差点→都庁北→NSビル

<駐車場及び駐車サービスについて>

地下1階、地下2階	駐車可能台数	427台（平面193台、2段階式234台）
入出庫時間		6:30 から 23:30
ご利用料金	30分	300円
進入車制限		高さ2.9m・長さ7.5m・幅2.5m

※ 地下2階は高さ2.1mまでの車しか入りませんのでご注意ください。

NSビル内の商店街で土・日・祝日に3000円以上のお買物やご飲食をなされますと駐車料金が2時間無料となります。ご利用になったお店で『駐車無料サービス券』をご請求下さい。

尚、一部の店舗で『駐車無料サービス券』を扱っていない店がありますので、ご利用になる前に『駐車無料サービス券』を発行しているかどうか、必ずお店でご確認下さい。

○会場周辺案内図



※ JR新宿駅南口より地下道ワンダーストリートを使いますと雨に濡れずにお越しになれます。

○各研究委員会のテーマ及び要旨

第1研究委員会 障害者の自立支援

◆ 本人のwish を聴く

第1研究委員会ではこれまで、それぞれの方に寄り添った個別支援計画、自立とは何かを考え、支援する側の姿勢を検証してきました。その中で、支援する側の良かれと思う事が、支援を求める側のご本人の想いに本当に一致しているのかという疑問も見え隠れしてきました。

そこで、施設見学を行い、支援を受けている当事者の言葉を聴き、ご本人はどう感じているのかを探ってきました。支援するにあたって、ご本人の言葉を単に聞くという事ではなく、個々の生活状況や過去を抱えた言葉の奥の想いを受けとめることが大切ではないかと思います。そこで、障がいの重さに関係なく、ご本人の話、想いを謙虚に聴き、その人の想いをどう汲み取り、寄り添うのかという事が、どんなに制度が変わろうとも、重要になってくると思います。

こうした視点から第1研究委員会では、昨年を引き続き、ご本人の生の声を聴いていきます。その中で自分史、夢、希望、支援してほしい事が話されると思います。まずは、言葉をそのままに受けとめ、その言葉の裏にある想いを今回のセミナーで一緒に検証していきましょう。

9:30 趣旨説明

9:40 「本人のwish を聴く」

江崎 康子 (湘南ふくしネットワークオンブズマン事務局・神奈川)

青木 理香 (カフェ カレッタカレッタ・神奈川)

菊池 まり子 (大泉つつじ荘・東京) (予定)

12:00 休憩

13:00 「言葉の話をしない人の想いを受け止めるために」

鈴木 明子（社会福祉法人みなと舎ゆう支援スタッフ・神奈川）

意見交換 等

15:30 終了

第2研究委員会 地域生活支援

◆ 生きにくさへの支援 ～「障害者福祉」は何を提供できるのか～

障害者自立支援法におけるサービス提供は、障害者の認定を受け、障害程度区分を判定された人に対して行われるのが基本です。いわば福祉の土俵に上がれる人が支援の対象者となるわけで、これはある意味常識でしょう。しかし、昨今、刑務所の受刑者の中に、療育手帳は持っていないけれど、知的に遅れを持っている方がいらっしやることが明らかになってきました。また、「発達障害者」の方たちには、基本的には障害者手帳は発行されません。このように、手帳の所持の有無に関わらず、社会で生きていく際に何らかの支援・サポートが必要とされる方の存在は社会的に無視できない状況となってきています。公的に把握している障害者の数そのものが、日本は欧米に比べて圧倒的に少ないということも統計的に明らかにされています。

そうするとこの社会には、どうやら手帳を持たない「障害者」と、福祉の土俵に上がることできた「障害者」が並存しているようです。制度上・行政上は「手帳を持っている人が『障害者』」なのであって、手帳を持たない人はそもそも障害者ではない」ということかもしれません。

私たちは、これまでの活動を通じて、障害者福祉の土俵に上がった人だけにサービスを提供するという現在の支援のあり方に対して強い疑問を感じてきました。必要な支援は「手帳の有無」や「障害程度区分の判定」では判断できないはずです。ICF（国際生活機能分類）を引き合いに出すまでも無く、障害者は、その人の生物学的な特徴のみから障害者になっているのではなく、周囲の環境との相互的な関係性を通じて、障害者という状態像にされていると考えるならば、彼らは社会から受ける疎外感と、それに伴う自分自身への深い喪失感を抱えつつ、地域の中で暮らさざるを得ない状態であると捉えるべきでしょう。そうであれば、生きていく上で何が障害になっているのかという視点から、私たちの「障害者」支援のあり方を問うならば、そこにはおそらく彼らの「生きにくさへの支援」というキーワードが自ずと浮かんでくるはずです。

「生きにくさ」とは、一般的に生活に追われている状態や、周囲からの理解・協力が得られない状態を表しているように思います。この「生きにくさ」に対してどのような支援が必要とされているのか、を考えることをきっかけに、これまでの伝統的な「土俵で待つ」タイプの福祉的支援のあり方に対する疑問点を提起しつつ、これから求められていく障害者支援像をも模索していけるものと考えています。

そんなわけで、今回の第2分科会では、あえて障害者福祉的な支援とは一見縁遠いところに焦点を当ててみました。「生きにくさ」を抱えている人たちへの支援という視点から、具体的にはホームレスの方たちへの自立支援活動をされている方にお話しを伺いながら、地域で生きていくとはどういうことなのか、生きにくさへの支援とは、という支援の根っこの部分を呼び覚ますようなお話を展開して、最後に障害者福祉は何ができるのかという本質に迫りたいと思います。

今は、目の前の「行動援護対象者のAさん」だったり「障害程度区分6のBさん」だったりへの介助・介護・援助で精一杯、という一職員のあなた、自立支援法や制度への対応に忙殺される中で「支援って何だっけ？」を考える暇も余裕も無いサービス管理責任者のあなた。そんなあなたに、「私たちは、いったい誰に対してどんな支援をしているのか」という「障害者福祉」そのものの仕事を見つめ直す機会を提供できる企画となるとと思います。ぜひ奮ってご参加ください。

9:30 趣旨説明…今回のテーマの趣旨についてスライドを交えわかりやすく説明いたします。

赤平 守（社会福祉法人同愛会・東京／当会理事）

10:30 講演「『障害者福祉』の外にいる『障害者』たち」

水田 恵（更生保護相談事業 生活再建相談センター運営委員会代表）

12:00 休憩

13:00 討論「生きにくさへの支援 ～『障害者福祉』は何を提供できるのか～」

石川 恒（社会福祉法人紫野の会かりいほ施設長）

佐藤 幹夫（ジャーナリスト）

司会：赤平 守（前掲）

15:30 終了

第3研究委員会 自己決定

◆主体としての本人の思いを支援者が主体的に受け止めるために

ーエピソード記述の方法を障害の分野に適用するー

アセスメント、個別支援計画、モニタリングという過程は、本人のニーズを明確にして、それを実現していく過程と捉えられているが、実際には、介護にせよ、訓練にせよ、その評価が一定の客観的な行動基準のみでなされているのが現状である。例えば介護であれば、おしめが替えられたかどうか、就労の訓練であれば、ある工程を間違いなくできるようになったかどうかなど、目に見える面だけが取り上げられて、本人がどのような思いでその支援を受けたかといった面はおろそかにされがちである。又、支援をしている我々が本人の気持ちをどのような思いでとらえたかといった面も同様に重視されない。客観性に乏しい、支援者は黒子でいい、いつでも誰でもできる支援でないと替りが利かない、といった理由で、本人や支援者の思いは軽視されている。しかし、この考え方を発展させると、我々の仕事は介護ロボットで十分足りる仕事ということになってしまう。専門性など無用ということにもなりかねない。

エピソード記述の方法は、中京大学の鯨岡先生が主に乳幼児の保育に関して提唱されている方法で、支援の一こま、支援者がこれは伝えたいと思う利用者とのやりとりをエピソードとしてまとめ、グループの中で読んで、感想を述べ合う。そこにどのような本人の思いが読み取られたのか、支援者はどのような思いで関わったのか、その過程をグループで追体験し、協同で評価していく。エピソード記述を用いたディスカッションは、保育の分野だけではなく、障害や高齢の分野においても非常に有効な手段と考えられる。我々は自分自身の態度、抱いている思い、利用者のとらえ方をグループで再検討することが可能なであり、職員全体の質を高めていく方法としても有効であると考えられる。

今年度第3分科会では、このエピソード記述の方法について鯨岡先生から講義を受け、その方法についての検討を行う予定である。障害の新しい分野を開いていきたいと思われる方は是非参加していただきたい。

9:30	趣旨説明	加藤 啓一郎 (風の輪・大阪/当会理事)	
9:40	講演 エピソード記述の方法	講演	鯨岡 峻 (中京大学心理学部教授)
11:10	エピソードを用いた話し合い①	チューター	鯨岡 峻
12:00	休憩		
13:00	エピソードを用いた話し合い②	チューター	鯨岡 峻
14:20	総括		
15:30	終了		

第4研究委員会 就労支援

◆『「障害の重い方の」はたらく意味を考える

～はたらいっている障害のある方の生の声を届けたい～

昨年度の当委員会では、障害者を雇用している企業の方、就労移行支援を積極的に行なっている施設の方、そして重い障害のある方の支援を通じてはたらくことの意味を考えている方という三つの立場の方をお招きして、就労支援のあり方を考えました。その中で当委員会の方向性は、実践報告の中から共通の課題を抽出し、解決の糸口をさぐり、その背景にある「その人なりの自立の一環としての就労」という理念の整理を行っていくことであることが見えてきました。さらにアンケートの中では、障害のある方から生の声を聞きたいという意見が多く、今回の企画はその意見を基に組み立てました。

まずは松端先生に就労をめぐる諸問題についてお話いただき、就労支援のあり方や環境の整え方などについて学びます。続いて実践発表として、障害のある方とその支援者にそれぞれ実際の様子や今思うこと、今後の展望などを語っていただくと考えています。お一人は横浜市役所に雇用された方、もうお一人は一般企業に就労支援センターを介して勤めている方を予定しています。就職に至る道や現在の心境をお聞きする中で、どのような課題があるのかを改めて議論しようと思います。また支援者からのお話もお聞きすることで、より明確に社会の課題という意識を持つ

ことができるのではないかと期待しています。午後は発表者のお話を基に、参加者ととも議論する形態をとり、それぞれの立場を理解しつつ、課題を共有し、実践に生かせるような議論にしたいと思います。

働く皆さんの生の声が参加者や社会に届きますように。奮ってご参加ください。

- 9:30 開会 趣旨説明
坂田 晴弘（国分寺市障害者センター・東京/当会副会長）
- 9:40 講演「就労支援の考え方とポイント ～働く環境から考える～」
松端 克文（桃山学院大学社会学部准教授・大阪）
- 10:40 休憩
- 10:50 実践発表「就労の実際 ～私たちはこう働いています～」
- ①横浜市役所
国分 忠博（横浜市健康福祉局障害福祉部障害企画課就労支援係長・神奈川）
寶田 宣亮（横浜市健康福祉局障害福祉部障害企画課就労支援係・神奈川）
林田 泰河（横浜市健康福祉局障害福祉部障害企画課就労支援係・神奈川）
- ②一般就労
雨宮 真人（ラウンドワン八王子店・東京）
三木 良子（武蔵野市障害者就労支援センターあいる・東京）
- 12:30 休憩
- 13:30 ディスカッション「就労の実際と課題 ～皆で就労について語ろう～」
コーディネーター 松端 克文（前掲）
発表者・参加者を交えて
- 15:30 終了

第5研究委員会 サポートシステム

◆「どう変えられる！この現場状況、この人材難 …私たちの目指す福祉社会は…」

障害者自立支援法は結局、障害者福祉予算を大幅に増やすことなく、精神障害者を福祉サービスに加え、小規模作業所を法定内事業に移行させてサービス量を拡大すること、そのためにサービス費単価を切り下げ、利用者負担を増やすことをねらいとするものであったと言っても過言ではない状況となっています。そしてこの手法は、後期高齢者医療制度や、現在審議中の保育制度改変にも共通する、「小さな政府」（＝低福祉・低負担＝新自由主義）路線であり、貧富の差の拡大路線であるとも言えます。

特にサービス費単価の切り下げは、人件費の切り下げとなって、支援現場に深刻な事態を招いています。障害者福祉に就く職員の減少、応募者の激減など、現場での欠員が常態化し、障害当事者一人ひとりの存在の価値と響きあう支援展開のエネルギーを著しく減退させています。

障害がある一人ひとりへの「支援」は、足りないところを補う行為としての「介護」ということにとどまらず、「意志決定への支援」も含めた相互的な営みであり、「心と心の交流による創造的行為」とも言えるものです。利用者と支援者の共感関係の中に「自己決定」が成立し、それぞれの主体が輝くことになります。

今改めて、「社会福祉基礎構造改革」以後、「支援」を「サービス」ととらえることに問題はなかったか。「利用者と事業者の対等な関係による契約」とは何を実現しようとするべきであったのか。「利用契約」というものの捉え方と、「障害者の意思決定への支援」の間に食い違いはなかったのか等、根本に立ち戻って、再検討する必要があると思います。

障害者自立支援法の内包する問題点は、日本社会の将来をどのようにするのかという極めて重要な課題と直結するものでもあります。このような問題意識に基づき、日々の支援実践現場の視点から障害者自立支援法の現状を分析するとともに、これからの障害者福祉の展望について議論を深め、支援現場のエネルギー再生に向けたいと思います。多くの関係者の参加を呼びかけます。

- 全体進行 明石 洋子（社会福祉法人あおぞら共生会・神奈川／当会理事）
- 9:30 趣旨説明 柴田 洋弥（日の出福祉園・東京／当会副会長）
- 10:00 講演 「自立支援法の現状と課題」
講師 大久保 常明（全日本手をつなぐ育成会常務理事）
- 11:30 休憩
- 12:30 講演 「福祉社会の展望」
講師 石毛 瑛子（市民福祉サポートセンター代表・元参議院議員）
- 13:30 討議 「どう変えられる！この人材難 …私たちの目指す福祉社会は…」
石毛 瑛子（前掲）
藤内 昌信（NPO だれもがともに小平ネットワーク・東京／当会第5研究委員会運営委員）
清水 明彦（西宮市社会福祉協議会 障害者生活支援グループ・兵庫／当会監事）
中島 博幸（やまびこ工房・神奈川／当会理事）
会場からも参加
- 15:30 終了

第6研究委員会 ライフサイクル

◆本人の立場で考えよう～分かりにくい行動・行動障害を示す人への支援のあり方

第6研究委員会のテーマは「ライフサイクル支援」です。障害のある人への支援は、「幼児期は療育」「学齢期は特別支援教育」「成人期は福祉」と分断されがちです。そのことが本人の健やかな育ちや自己実現を阻んだり、共に暮らす家族の負担感や孤立感を増幅させることが指摘されています。私たちは、ライフサイクルを通して本人が生き生きと自分の人生を歩んでいけるような支援のあり方を研究してきました。

分かりにくい行動・行動障害を示す人には、その人なりの思いが必ずあります。しかし本人の意思や感情が相手に伝わりにくい状態（本人の表出が弱い、または相手が十分に受け止めていない）になると、本人は自分の辛さを自分だけで解決しなければなりません。そのため分かりにくい行動がさらに激しくなっていく、ということがよく起こります。

この研究セミナーでは、参加者のみなさんと一緒に、「本人の立場で」本当に必要な支援とは何かを考えたいと思っています。そのため参加型のグループ・ディスカッションを企画しました。当日のディスカッションの準備のため、参加申し込みをされた方には、アンケートを配布いたします。ご協力ください。日頃みなさんが現在感じている、支援（または子育て）の上での課題を共有し（これだけでも大きな刺激になると思います！）、具体的な解決策を話し合いたいと思います。保護者の方、各ライフステージで支援をされている方、専門職の方、様々な立場からの参加をお待ちしています！

<スケジュール>

- 全体進行 伊藤 寿浩（貫井福祉園・東京／当会理事）
- 9:30 第6研究委員会の活動報告 荒木 大輔（ウイズ・東京／当会理事）
- 9:45 趣旨説明・問題提起 岩崎 隆彦（淡路こども園・大阪／当会理事）
- 10:15 グループ・ディスカッション①（自己紹介、課題共有）
- 12:00 休憩
- 13:00 グループ・ディスカッション②（本人の立場で必要な支援を考えましょう）
- 14:45 発表
- 15:15 まとめ 赤塚 光子（立教大学コミュニティ福祉学部教授／当会会長）
- 15:30 終了

第10回 全国障害者生活支援研究セミナー

セミナー・懇親会参加及び宿泊申し込みのご案内

会議の参加及び宿泊の申し込みは、京王観光株調布支店が代行させていただきます。
お申し込みは別紙申込書で郵送又はFAXにてお願い致します。

- ★ セミナー日程 2009年1月31日(土)～2月1日(日)
- ★ セミナー会場 1月31日(土) 新宿NSビル スカイカンファレンス ホールA・B
2月1日(日) 新宿NSビル NS会議室 303～308
東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル TEL 03-3342-3755
- ★ 参加費 【両日参加】正会員 10,000円 情報会員 11,000円
一般 12,000円(学生6,000円)
【1日のみ】正会員 6,000円 情報会員 6,500円
一般 7,000円(学生3,500円)
- ★ 懇親会 費用 6,000円 場所:新宿NSビル スカイカンファレンス ルーム③
- ★ その他 遠方からのお越しで宿泊希望の方は宿泊手配を承ります。
2009年1月30日(金)～1月31日(土)を含む2泊

ご宿泊施設

新宿ワシントンホテル <small>(新宿駅西口駅徒歩約8分)</small> <small>ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み</small> <small>*NSビル(セミナー会場)まで徒歩約3分</small>	〒160-8336 TEL 03-3343-3111		東京都新宿区西新宿3-2-9 FAX 03-3342-2575	
	シングル	@12,500円	ツイン	@10,000円
京王プレッソイン新宿 <small>(新宿駅西口徒歩約9分)</small> <small>ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み</small> <small>*NSビル(セミナー会場)まで徒歩約5分</small> <small>*朝食は簡易朝食(パン・コーヒー・ジュース)になります</small>	〒160-0023 TEL 03-3348-0202		東京都新宿区西新宿3-4-5 FAX 03-3348-0203	
	シングル	@9,500円	ツイン	設定なし

ご宿泊取消料のご案内(宿泊日を基準とします)

取消日	30～15日前	14～08日前	07～04日前	03～02日前	前日	当日
取消料率	10%	15%	30%	50%	80%	100%

- ★ お申し込み方法
セミナー及び宿泊のお申し込みは、京王観光株調布支店あて別紙申込書で郵送又はFAXにて1月9日(金)までにお申し込みください。参加受付後、参加書類及び費用振込み案内を1月中旬頃送付させていただきます。
- ★ お問い合わせ先
〒182-0024 東京都調布市布田3-1-7 池田ビル5階

KEIO 旅 京王観光 京王観光株調布支店

TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321 担当:大野

営業時間:月～金曜日 9:00～18:00(土・日・祝日はお休みです)

第 10 回 全国障害者生活支援研究セミナー申込書

申込日： 年 月 日

お申込締切日：2009年1月9日（金）必着

★ ご注意：申込書のコピーをお控えとしてお取下さい。

都道府県名		勤務先				
参加書類等 送付先	〒 -					
		TEL	()	FAX	()	
参加者氏名（ふりがなをふってください）		役職	区分	参加希望日	希望分科会	懇親会
ふりがな	男・女		正会員 情報会員 一般 学生	1月31日（1日目）のみ	1・2・3 4・5・6	参加・不参加
				2月1日（2日目）のみ		
				両日とも参加		
ふりがな	男・女		正会員 情報会員 一般 学生	1月31日（1日目）のみ	1・2・3 4・5・6	参加・不参加
				2月1日（2日目）のみ		
				両日とも参加		
ふりがな	男・女		正会員 情報会員 一般 学生	1月31日（1日目）のみ	1・2・3 4・5・6	参加・不参加
				2月1日（2日目）のみ		
				両日とも参加		

宿泊希望	宿 泊 日		希 望 ホ テ ル		部屋タイプ
有 無	1/30(金) (前泊)	1/31(土) (当日泊)	第一希望： 第二希望：		1・シングル 2・ツイン (どちらかに○印をお付け下さい)

★ 各ホテルの部屋数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい

★ 上記申込書に必要事項をご記入の上、下記あてに郵送又はFAXにてお申し込み下さい。

お申し込み先 **KEIO 旅 京王観光** 京王観光(株)調布支店 〒182-0024 東京都調布市布田 3-1-7 池田ビル5階

TEL 042-484-2881 FAX 042-484-1321 担当：大野

営業時間：月～金曜日 9：00～18：00（土・日・祝日はお休みです）